

# 「貴様は国を守る消耗品だ」

旧制八尾中学を経て、関西

大学予科に入ったのは1940年4月です。経済学の勉強の傍らの軍事教練は、もういやでした。3年半後、本科2年生で学徒出陣となりました。いやおうなしの話です。大阪の中之島公園での壮行会は、「なるようにしかならない、前へ前へ」という雰囲気でした。

43年12月に出征が決まり、海軍を志望して、広島県の大竹海兵団に入りました。予備学生の資格試験に合格して神奈川県三浦半島へ。ボートをこいだり接岸したりする訓練がありました。失敗したら上官からの鉄拳です。次は千葉県館山に行き、B29を高角砲で射撃する訓練です。弾を込めるのは人力で、轟音

## 伝言

学徒出陣70年

### 1 関西大・塩崎博さん (91)

## 命は一つ…特攻志願

を聞くばかりでした。

館山の学生隊は1班10人でしたが、44年12月、それぞれ戦地などに行くよう命じられました。その一人、大阪商科大学(現大阪市立大)の友達

は「硫黄島に行け」と言われた途端、死刑の宣告を受けたような様子でした。硫黄島行きが決まった翌日の深夜2時、彼が大きな声でみんなに起きろと号令をかけたのです。彼は少しおかしくなっていました。気持ちがかかるから、誰も彼を責めやしません。私はかける言葉がなく、

姿を見つめるだけでした。

仲のいい友達も硫黄島や沖縄などで戦死します。私は海軍少尉になり、青森県の大湊海兵団に行くよう指示されました。たった1年間の速成の士官です。上官から、「貴様は国を守るための消耗品だ」とはっきり言われたのは今でも忘れられません。

45年3月、東京大空襲があり、サイパンから来るB29をやっつけないことには日本本土の空襲は止められないとなりました。

4月、上官の参謀から「帰ることはできないが、それでも特攻を志願する者は前に出る」と言われ、一緒にいた学徒出陣の少尉たちは全員そろって前へ出ました。私は「母上様長い間お世話になりました」と遺書を書いてツメを切り、封筒に入れました。断ろうなんて考えはありません。特攻作戦は7月から8月にかけて計画され、青森県の三沢にいた海軍の予科練に所属する二十歳前の14人と地べたをはいずり回る訓練を毎晩毎晩やりました。

私たちは爆撃機に乗ってサイパンの飛行場に敵陣着陸し、爆弾や手投げ弾を投げ、向こうの飛行機や建物を破壊する作戦だったので。復員して大学を卒業し、映画製作の世界に入りました。海軍では「運命共同体」を常に意識していました。その後の仲間たちを大切にすることをやり方につながったと思います。

〈メモ〉八尾市出身。戦後の約20年、東映で映画製作を担当。テレビCMの制作社団体の役員などを務め、現在は歌舞伎の市民向け講座を開く。東京都練馬区在住。



学徒出陣後、1945年当時の塩崎博さん



「国を守るための消耗品と言われた」と学徒出陣を振り返る塩崎博さん(東京都練馬区)

戦争を経験して、90歳を超えて生きてこられたからこそ伝えたいことがあります。一つしかない命、たった1回の人生を大切にしないといけないということ。どういふことがあっても戦争というのは人殺しです。人殺しをしないといけないんです。(大宮司聡)

卒業までの徴兵猶予措置が停止され、学生らが戦場に赴いた「学徒出陣」から今年で70年。繰り上げ卒業なども含め、学ぶ自由を戦争に奪われた人に今、伝えたいことを聞いた。